

提案発表主題 「家族や地域の一員として 生活をよりよくしようとする子供の育成」

～家族や低学年の児童との関わりを通して～

1 はじめに

現代の日本では、ライフスタイルの変化や家族構成の多様化が進んでいる。その中で、異なる世代の人々に関わる機会が少なくなっている。さらに、SNS やネットゲーム等、オンライン上でのやり取りが増え、家族や身近な人と積極的に関わり、人と人との関わり大切さを実感する場も失われつつある。そこで、最高学年となった児童が、家族や低学年の児童とのよりよい関わり方を工夫する活動を通して、家族や地域の人々と共に協力し合って生活することの大切さに気づき、生活の中で起こりうる諸問題を協働的に解決していこうとする態度を身に付けることができると考え、家族との関わりから低学年の児童との関わりへと学びが広がっていくよう題材を設定した。

また、本学級では、自分の思いを言葉で伝えることが苦手な児童も多く、一部の児童だけで話し合い活動が進んでしまうことも大きな課題となっている。そこで、実践的・体験的な学習活動を通して、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習環境を整えることが大切であると考えた。

異なる世代の人々とのつながりや信頼を築くことで、地域への親しみや愛着をより深め、共に生活していこうとする態度を育てたい。また、児童同士で協働したり、意見を共有して互いの考えを深めたりする場面を設定し、自分ができるようになったり気付いたりできた学びの変容を自覚し、喜びや達成感を味わわせ、自信を育てたいと考え、研究を進めた。

2 研究の視点

- (1) 年間指導計画や評価の工夫
- (2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

3 学習指導要領上の位置付け

- (2)家庭生活と仕事 (2時間)
- (3)家族や地域の人々との関わり (5時間)
- (4)家族・家庭生活についての課題と実践 (3時間)
生活の営みに係る見方・考え方 「協力・協働」

4 研究の実際

(1) 年間指導計画や評価の工夫

題材名「家族とワンチーム大作戦」

① 感染状況に応じた年間指導計画の変更

5月、本県においては、国の基準の「ステージ3」相当にあたる、とくしまアラート感染拡大注意・急増が発動されていた。「家庭で過ごす時間が増えている今だからこそ、できることがある」と考え、年間指導計画では、2学期に設定していた題材「家族とワンチーム大作戦」を5月にできるように計画した。その際には保護者宛に文書を作成し、実践のねらいがしっかりと伝わり、すべての家庭で協力を得ることができるよう配慮した。(図1)

本題材では、5年生までに学習したA(2)家庭生活と仕事の学習を基礎とし、「B衣食住の生活」、「C消費生活・環境」で学習した内容との関連を図り、A(4)家族・家庭生活についての課題と実践をゴールデンウィーク期間中に家庭で取り組むことができるようにした。

(図2)

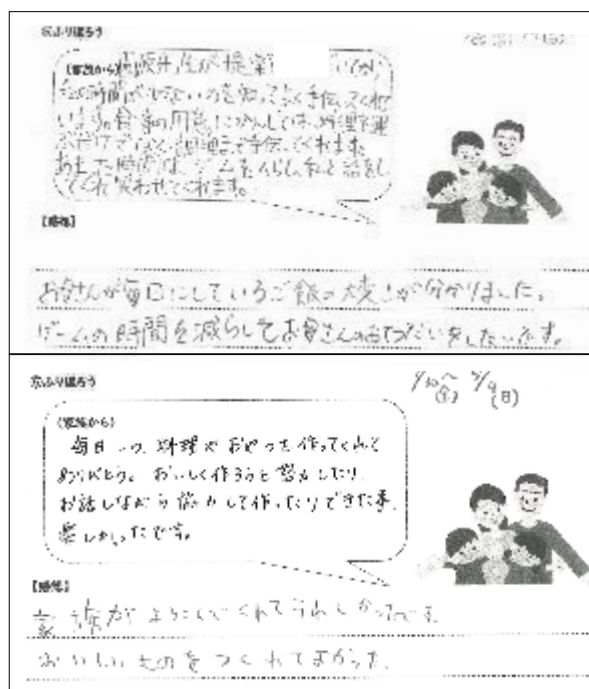


図1 児童・保護者の感想

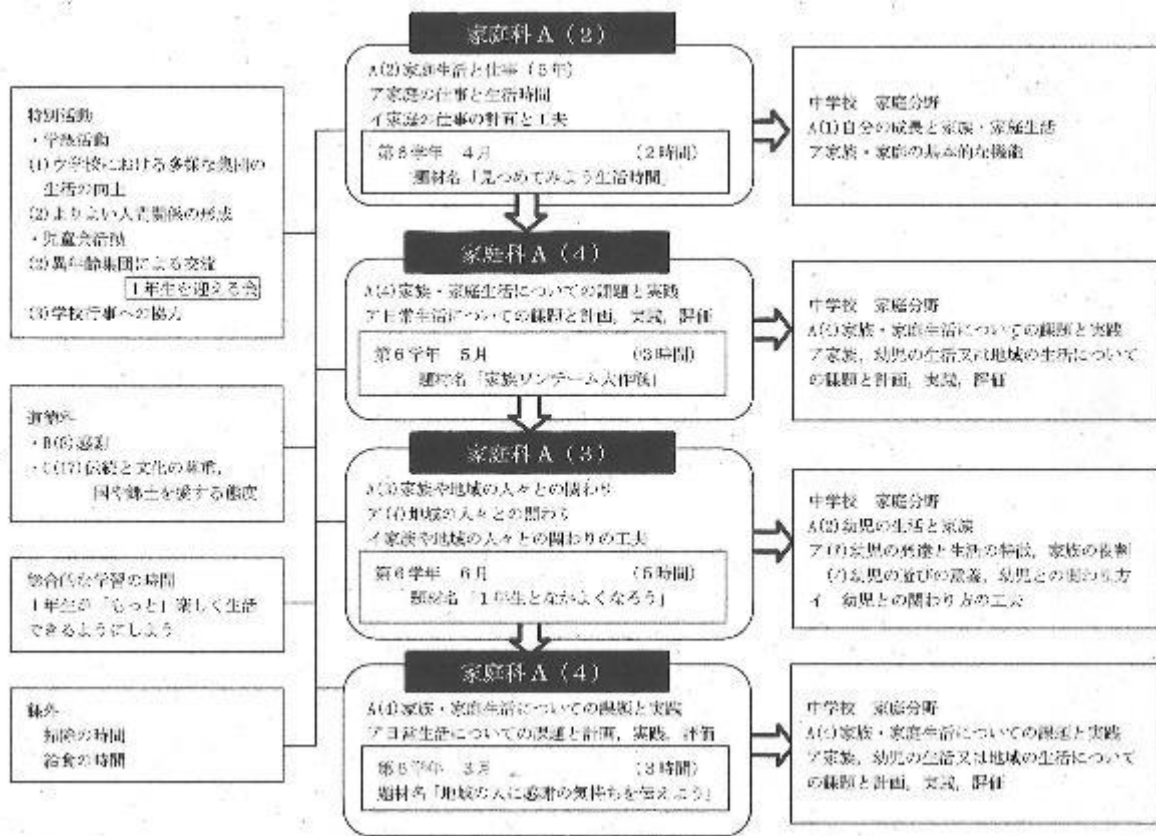


図2 題材の系統性その他教科等との関連

② 「ワンペーパーポートフォリオ」を活用した評価の工夫

児童が家庭でもスムーズに学習を進められるよう、家族へのインタビューを通した問題発見から、振り返りまでを1枚にまとめた「ワンペーパーポートフォリオ」を活用した。(図3) 課題が明確になり、見通しを持って学習を進めることができた。煮干しから出汁をとったみそ汁を作ったり、家族と一緒にリビングの大掃除をしたりする等、5年生までの知識・技能を活かしながら取り組むことができた。さらに、児童自身が自らの学習を振り返ることで、次の学習に向かう意欲へとつながった。一人一人の思考の流れを適切な場面で確認することができ、教師にとっても家庭での実践を評価する手がかりとなった。

図3 ワンペーパーポートフォリオ

(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 題材名「1年生となかよくなるう」

① 「主体的な学び」の視点

1年生と6年生で「なかよしペア」を組み、4月から交流を積極的に行ってきた。(図4) 関わりが深まった6月に、本題材を設定することで、1年生児童との日々の関わりや1年生担任へのインタビューをもとに、「雨の日にワークスペースで走り回っている」「そうじが時間内に終わらない」「スリッパがそろわない」等の問題を見だして、課題を設定することができた。



図4 なかよしペア

② 「対話的な学び」の視点

5つのグループに分かれて課題解決に取り組んだ。ポスターセッション、ワールドカフェ等、多様な他者と力を合わせて課題解決に取り組む場面を多く設けた。また、タブレット端末やホワイトボード、思考ツールを活用し、情報を収集したり、思考を可視化・共有化したりできるように工夫した。(図5) グループの考えを、他のグループの友達に説明したり、友達からアドバイスをもらったりする活動を通して、実践に向けたよりよい方法を考え、計画を見直すことができた。



図5 ホワイトボードやタブレット端末を用いて説明

③ 「深い学び」の視点

これまでの1年生との関わりで気付いたことや活動の様子を掲示し、適宜振り返ることができるよう工夫した。「1年生の残食が多い」という問題ではB(1)アで学んだ知識と関連づけた紙芝居を総合的な学習の時間に作成し、読み聞かせを行った。児童自ら1年生の給食の様子を見に行ったり、1年生の嫌いな食べ物のアンケート調査を行ったりする等、よりよい計画にしようとして粘り強く取り組む姿が見られた。また、他のグループの児童も実践後に給食や掃除の様子を見に行ったり、プレゼントしたすごろくで一緒に遊んだりする等、関わりが続いたことで、1年生の成長を間近に感じるとともに、自分自身の達成感を味わい、「協力・協働」の大切さに気付いた。(図6)



図6 水やり用ペットボトルの収納ボックス

5 成果と課題

- (1) 児童同士や家族、低学年の児童等、身近な他者と協働しながら日常生活をよりよくするための課題解決に取り組むことで、主体的・対話的で深い学びへと繋がった。
- (2) 家庭への啓発を行い、連携を図ることが、家庭科学習の意義について理解を深めることにつながった。家族の協力を得ながら、学校での学びを家庭生活で継続して実践することができた。
- (3) 児童の思いと教師の思いがずれてしまうことがあった。さらに粘り強く課題解決に取り組めるよう題材のねらいを適宜捉え直したり、見通しを立て直させたりする必要があると考える。

<参考文献>

筒井恭子著 「小学校家庭科 資質・能力を育む学習指導と評価の工夫」, 東洋館出版社, 2020